

## 日本語話者における中国語学習者の 言語学習ストラテジー使用傾向

花 尻 奈緒子

**要旨：**レベッカ・L・オックスフォードが英語学習者向けにまとめた「言語学習ストラテジー」を中国語学習に応用した場合の、言語的特徴の差異を超えた言語学習上の効果と、言語的差異によって発生する不足の両者について検討するため、三重大学の中国語学習者（英語は必修のため全員履修）を対象に、英語と中国語両面における各自のストラテジー使用傾向について、オックスフォード考案の「SILL テスト」によるアンケート調査を行った。言語水準を初級と中上級に分け集計した結果によれば、中国語学習者においてもストラテジー使用率と習熟度との間に相関関係が存在することが確認できたほか、中国語中級者のストラテジー使用傾向のみ、デスクワーク中心型ではない「間接ストラテジー」使用の傾向が確認できた。これは学習者の個人的熱意に止まらない、講義形式の影響が作用していると考えられる。また自由記述回答に書かれた学習の工夫からは、中国語の特徴を原因とする発音・リスニングのストラテジーが、SILL テストのストラテジー項目に不足している点も明らかにした。外国語教育におけるアクティブ・ラーニングは、間接ストラテジーの使用を促すことができるが、多くはグループワークであり、大学1年次から基礎を学び、進度の制限がある中国語の講義において実践は困難である。しかし、言語学習ストラテジーを教員が把握し、意識的に間接ストラテジーの使用を促すことにより、アクティブ・ラーニングに近い効果を獲得できるはずである。

### はじめに

中国語を学習し始めたばかりの学習者から「中国語はどうやって勉強すればよいのか」と問われることが多い。ひとまず「今まで学んできた英語と同じ」と答えるが、これは「大学受験の経験を応用して自身で学習方法を考えて欲しい」という期待をこめた回答である一方で、筆者自身、外国語の勉強法はそれが何の言語であっても効果の程は同じである、という根拠のない判断に拠る。これは一面においては正しいといえよう。しかし、拙稿「日本語を母語とする中国語初学者における簡体字誤記の傾向」（2017）で明らかにした通り、英語と中国語は言語構造のみならず、日本語話者が学習する場合の有利と不利も決して同じではない。したがって、日本語話者に合わせた中国語独自の学習上の戦略を用いることで、より効果的な教育・学習法の確立が可能なのではないかと筆者は考える。

言語学習ストラテジー（以下「ストラテジー」と略称）は、言語学習の際に学習者が意識的・無意識的に使用する戦略的行動を指す。本稿は日本語話者が中国語を学習する場合に限定してストラテジー使用の傾向を明らかにし、その結果の分析を通してより効果的な教育・学習方法を考察する。そこで、中国語学習における特徴を明らかにするため、大学生に最も馴染みのある外国語である英語におけるストラテジーとの比較を行う。また、学習者が使用するストラテ

ジの種類の傾向を調査し、ストラテジーの強化および補助が可能な指導法および講義の手法についても検討する。

## 1. 言語学習ストラテジーの概要と先行研究

言語学習ストラテジーは、1970年代から外国語教師の経験を元に研究が始まり、最もよく知られる成果は Rebecca L. Oxford が外国語教師向けにまとめた著作 “Language Learning Strategies – What Every Teacher Should Know” である。ストラテジーそれ自体は学習者を主体とし、自律的に学習する能力を測るものであるが、教師側が学習者の使用ストラテジーの傾向を把握することによって、指導に際し必要なアプローチ方法を推察することが可能である。

Oxford (1990) がまとめたストラテジーは全 50 項目である。まず大きく「直接ストラテジー」と「間接ストラテジー」の 2 種に分けられる。直接ストラテジーは、学習者が情報を蓄積し、言語を理解し、知識のズレを埋めるための言語の認知処理であり<sup>(1)</sup>、間接ストラテジーは、学習者が学習の位置づけ、順序立て、計画、評価といった機能を使って、学習過程を調整することである<sup>(2)</sup>。傾向としては、直接ストラテジーは個人的学習、間接ストラテジーはそれに加えて他者とのコミュニケーションを通じた学習において使用される。Oxford (1990) によれば直接ストラテジーと間接ストラテジーを組み合わせることにより、学習効果はより高まるとされる。直接・間接ストラテジーの各 3 パートの内容は以下の通りである。

### 直接ストラテジー

- ① 記憶ストラテジー：新出単語を記憶するためのストラテジー。  
例) 単語とイメージを結びつける、語呂合わせを使用するなど。
- ② 認知ストラテジー：言語をアウトプット・練習し、認知するためのストラテジー。  
例) 単語を使って話してみる、メモやメッセージを書くのに使用するなど。
- ③ 補償ストラテジー：知識が足りない場合それを補うためのストラテジー。  
例) 知らない単語の意味を推測する、言い換えるなど。

### 間接ストラテジー

- ④ メタ認知ストラテジー：学習を評価・計画し、認知の機会を得るためのストラテジー。  
例) 会話の相手を探す、目標をたてるなど。
- ⑤ 情意的ストラテジー：言語学習における感情面をコントロールするためのストラテジー。  
例) リラックスするようつとめる、自身の気持ちを誰かに話すなど。
- ⑥ 社会的ストラテジー：他者との関わりを利用した学習のためのストラテジー。  
例) 他の学生と練習する、間違いの指摘を依頼するなど。

これら 50 項目のストラテジーの各項目について、学習者が行っている頻度を調査するテストが「SILL (Strategy Inventory for Language Learning) テスト」であり、本稿はそれを使用しアンケート調査を行った。

中国語教育における日本語話者のストラテジー研究は現時点でわずかであるが、曲明ら (2012) が会話テストにおけるコミュニケーション・ストラテジーに絞って使用の実体を調査し、聞き返しの際に日本人学習者が言葉の繰り返しを行う傾向を明らかにしている。中国にお

いては、華東師範大学教授の徐子亮『漢語作為外語的学習研究：認知模式与策略（外国語としての中国語の学習研究：認知モデルとストラテジー）』が、Oxford から欧米の英語教育におけるストラテジー研究をベースにしつつ、日本語話者に限定せず、独自のストラテジー研究を行っている。脳の機能に関わる生理学的作用、および心理学を基礎とした記憶と認知のモデルに基づき考案した講義形式について、実践時の記録を交えて効果を評価するなど、第二外国語としての中国語講義の効果的な進め方について詳細に検討しており、講義づくりの側面を中心としたストラテジー研究といえる。ただし、実践対象が中国留学中の中級以上クラスであるため、学習者がすでに中国語で会話できる水準にあり、教員が中国語を使用して講義するケースに限定されている。

また、日本において英語教育および日本語教育のストラテジーは数多く研究されており、ストラテジーに関わる知識は日本語教育能力検定の内容に含まれてもいる。そのため、特に人口が多い中国語話者の日本語学習のためのストラテジーについては、日本語教授法研究の蓄積の一部として最も研究成果があげられている。しかし、同じく中国語－日本語の関係ではあっても、同様のストラテジーをそのまま日本語話者向けの中国語学習に応用することは当然不可能である。なお、大学の第二外国語教育においては、原田早苗（1998）がフランス語、元木芳子（2006）がドイツ語の状況を調査している。いずれも学習者の言語能力レベル別にストラテジー使用の頻度の分析を行い、レベル上位グループのストラテジー使用率が高いことを確認し、英語以外においてもストラテジーと言語能力に相関関係が存在することを明らかにした。また、杉橋朝子（2004）は英語学習者について、大学1年生に高校卒業時と現在のストラテジー使用状況について調査し比較を行ったほか、上級レベルのクラスに在籍する2年生にも調査を行い、カリキュラムと授業形態の変化によってストラテジー使用状況の伸びがみられない場合があることを明らかにしている。以上のように、学習者の学習意欲を測るツールとしても SILL テストは有効である。

## 2. 調査

### 2-1. 調査対象

三重大学教養教育機構が開講する「異文化理解Ⅰ基礎（中国語）」前期クラスの受講者51名を調査対象とし、43名の有効回答を得た。また、「異文化理解Ⅰ」受講済みの学生向けの同「異文化理解Ⅱ総合（中国語）」「異文化理解Ⅱ演習（中国語）」前期各1クラス、計2クラス16名の受講者と同講義の単位を前年度までに取得済みの4名の学生の計20名を調査対象とし、17名の有効回答を得た。以上の前者43名を初級者クラス、後者17名を中級者クラスと分類する。なお、「異文化理解Ⅱ」の2クラスは開講時限が異なるため、重複する受講者が多数あったが、回答は1名につき必ず1度のみと限定した。

### 2-2. SILL テストの内容と回答方法

アンケートは回答者の言語レベルについての設問と Oxford による SILL テストならびに筆者がアレンジした中国語用 SILL テストからなる。また、中国語に関しては、筆者独自に考案したストラテジー項目を3つ追加した（後述）。具体的な SILL テストのストラテジーリストは本稿の末尾に参考資料として付す。回答は英語が全50、中国語は全53の各ストラテジー項

目について、「必ずする（100%）・通常する（99～50%）・たまにする（49～20%）・通常しない（20%未満）・したことがない（0%）」の内、自身の状況に該当する使用頻度の欄に○を記入する形で回答を求め、さらに両言語とも学習者が独自に工夫して行っている勉強法についての、自由記述式の回答欄を設けた。なお、中国語の初級クラス（1年目の学習者）については、調査時点で学習開始から4か月であり、作文・会話など高度なコミュニケーションをまだ中国語を使用して行うことはできない場合が多いため、作文・会話・長文読解などに関するストラテジーは予め除外してアンケート調査を行った。二年代以上の中級学習者は、英語・中国語ともに全ての項目においてアンケート調査を行っている。

## 2-3. データ収集の方法および手順

回答に不備があったものは予め除いた上で、回答者を習熟度別に分類する。中国語の場合、学習1年目にあたる初級クラスを全て「初級者」とし、中級クラスの内中検3～4級合格者を「中級者」、準4級のみ合格を「初級者」に分類した。英語の場合、最も受験者数の多いTOEIC基準では500点未満を初級、500～699点を中級、700点以上を上級とする。TOEIC未受験者の場合、英検は3級以下を初級、準2～2級を中級、準1級以上を上級とする。回答された頻度は「必ずする・通常する・たまにする・通常しない・したことがない」を頻度が高い順に5～1の得点とし、全ての回答者のストラテジーパート別得点数を算出した。さらに、それぞれストラテジーのパート別に平均値・最高値・最低値を算出し、どのパートが最も使用されているか確認した。

## 3. 結果

### 3-1. 言語レベルによる回答者の構成

○英語（60名中）

表 1

初級者	中級者	上級者
19名（31.1%）	40名（65.6%）	2名（3.3%）

○中国語（60名中）

表 2

中検未受験	準4級合格	4級合格	3級合格
4名（6.6%）	44名（72.1%）	9名（14.7%）	4名（6.6%）

### 3-2. 英語の結果

#### ○英語初級者のストラテジー傾向

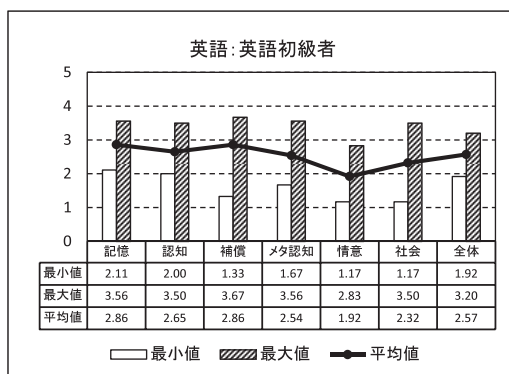


図 1

#### ○英語中上級者のストラテジー傾向

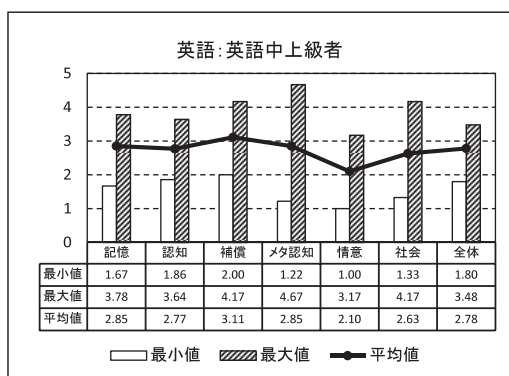


図 2

### 3-3. 中国語の結果

#### ○中国語初級者のストラテジー傾向

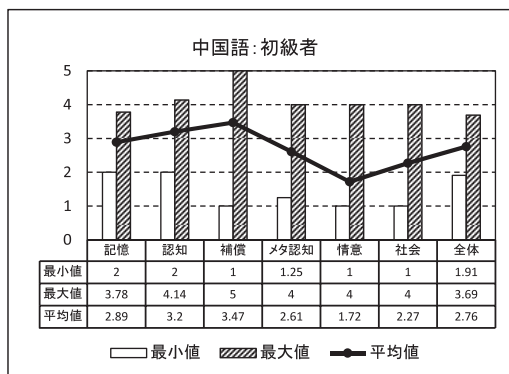


図 3

○中国語中級者のストラテジー傾向

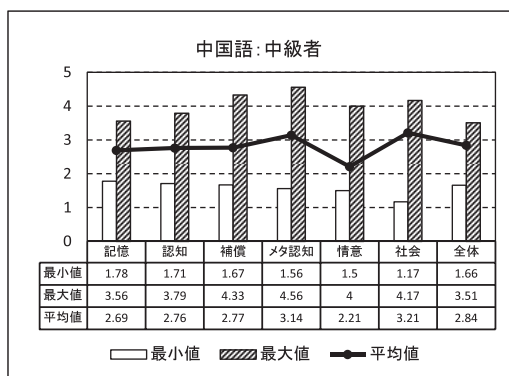


図 4

## 4. 考察

### 4-1. 全体の傾向

ストラテジー全体の平均値は英語・中国語、初級・中級を問わず 3.00 前後の数値であり、総合的なストラテジー使用の傾向は「たまにする（49～20%）」程度だと確認できる。この数値は決して高いとは言えず、ストラテジー使用について指導する余地は充分にあるといえよう。また、情意ストラテジーの使用率が最低であることが、英語・中国語・初中級全ての状況における共通点として挙げられる。情意ストラテジーは学習中の感情、主に自身の失敗と不安感に対する感情面でのフォローを、自らいかに行うかが中心となる。すなわち学習におけるそのようなフォローが、成績の良し悪しにかかわらず必要に迫られることのない状況にあるということの意味するだろう。講義外でネイティブを対象に言語を使用する機会がほとんどなく、主にペーパーテストの評価と反省を繰り返す授業形態の場合、外国語使用者としての能力の高低は、学習者の感情を動かすほどの切実な問題にならないためと考えられる。

さらに、使用率の高い順にストラテジーパートを並べると、英語ならびに初級中国語には直接ストラテジーが間接ストラテジーに比べ使用率が著しく高いという共通性がみられ、また中級中国語クラスにおいてはその順位が逆転するという現象が確認できた。単純に考えるならば、馴染みのある英語の学習法を中国語初級者においてもそのまま流用して学習していると推測できるが、中国語と英語の言語的差異を考慮に入れるならば、文法や文字の違いを超越した学習環境の共通点についても検討すべきであろう。以下では学習者の属性をより細分化して比較を行う。

### 4-2. 中国語と英語の場合の比較

日本在住日本語話者における中国語学習と英語学習の共通点として、(1)日常的に使用する機会が少なく、意識的に機会を作らねばならない、(2)主にデスクワークで記憶し、文法を把握して以降に会話での実践が始まる、(3)初級の講義では文法に偏重する、(4)検定試験のスコアが習熟度の指標とされる、などの共通点がある。

まず最も顕著に差が現れたのは、中国語と英語それぞれの中級者の使用ストラテジー状況で

ある。使用率が高い順に左から並べると以下の通りとなる（なお、直接ストラテジーには下線を付した）。

英語中級者：補償－記憶－認知－メタ認知－社会－情意

中国語中級者：社会－メタ認知－補償－認知－記憶－情意

いずれも情意ストラテジーの使用頻度は最も低い、それ以外のストラテジーの順位が大きく異なる。これに対し、中国語初級者と英語初級者のストラテジー使用率を同様に比較すると、以下ようになった。

英語初級者：記憶・補償（同率）－認知－メタ認知－社会－情意

中国語初級者：補償－認知－記憶－メタ認知－社会－情意

すなわち、中国語初級者は中級へとステップアップする過程において、使用頻度の高いストラテジーが直接ストラテジーから間接ストラテジーへと大きく変化しているということになる。一方で、英語の場合は初級者も中級者も大きな差異はない。そこで中国語中級者と中国語初級者に分類し、それぞれ英語を学習する際のストラテジー使用傾向を確認したところ、以下のようになった。

○中国語中級者の英語学習

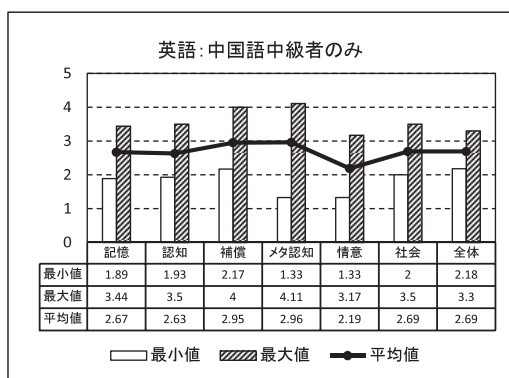


図 5

○中国語初級者の英語学習

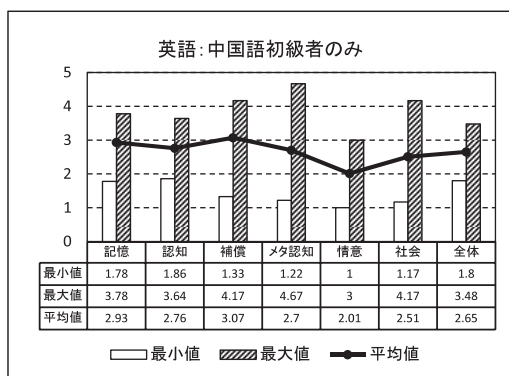


図 6

### 中国語中級者（英語）：メタ認知－補償－社会－記憶－認知－情意

これが示すのは、中国語中級者がそれ以外の学習者と比較して、英語学習の際にも間接ストラテジーを使用する確率が高いという傾向である。

言語学習者のストラテジー使用傾向の差異は、学習者自身の意識的選択も無論重要であるが、言語を使用する機会がいかなる形で学習者に提供されるか、すなわち第一に講義の形態に拠るところが大きい。日本の大学における中国語教育は一般的に、初級の一年間で基本的な文法の学習を全て済ませ、二年次以降は語彙と表現の知識を増やしていくための講読に加え、会話・作文などのコミュニケーション実践学習がカリキュラムに採り入れられる。ただし、講義形式は教員毎に異なるため、中国語教育全般の傾向をまとめることは不可能である。ただし、本調査を行った三重大学中国語中級クラスに限るならば、担当の教員（ネイティブスピーカー）によると、講義中に学生に要求する行動に「中国語の会話文・長文を聞き、それについての質問に中国語で回答する」、「他者が中国語で回答した内容を日本語で説明する」、さらに同様の質問について「自身の状況に即して中国語で回答する」があり、出席すれば必ず中国語で話さねばならないよう工夫されている。また、グループで協力して会話文を作り上げる作業も課されている。すなわち、積極的なアウトプットを行うメタ認知ストラテジー、ならびに他者との学習の協力を行う社会的ストラテジーを使用する機会が、講義の中で意識的に作り上げられているのである。

無論、英語学習においても会話・作文はカリキュラムに取り込まれるが、一年次の場合は特に、大学受験のために継続してきた英語学習の経験が影響すると考えられる。また、間接ストラテジーの使用状況が初中上級者ともに低いことから、基本的に読み書きを中心としたデスクワーク型の学習が継続していることが分かる。実際に学生に聞き取り調査を行ったところ、三重大学の必修英語科目は基本的に1年次に履修され、TOEIC対策、長文講読ならびにコミュニケーションの3種の講義を受講することになるが、コミュニケーションの科目であっても、用意された台詞を使用し会話するなど、各自で文を組み立ててのコミュニケーション実践は課されない状況にあるという。二年次以上の英語は選択科目となり、ネイティブスピーカーの教員による英語を使用した講義などより実践的なコミュニケーションの訓練が行われるが、必修科目ではないため全員が受講するわけではない。無論、筆者は三重大学の英語教育の授業形式を批判するのではない。本調査においては中国語クラスのみで英語・中国語の調査を行ったが、ネイティブスピーカーの教員が担当する二年次以上向けの英語クラスに限定して調査を行えば、英語学習者の使用ストラテジーは今回の結果とは異なり、間接ストラテジーの使用率が初級クラスと比較して上昇すると予測できる。すなわち、授業形式の変化によって学習者のストラテジー使用傾向が、言語の差異や学習者の意欲に関わらず変化するのである。

### 4-3. 自由記述部分からの考察

アンケートの末尾に、SILLテスト上のストラテジー以外に自身が実践している学習の際の工夫を自由に記述するよう求めたところ、英語は4名、中国語は14名と回答数は中国語のほうが多く、また1名を除いた全てが中国語初級クラスの回答であった。元来SILLテストは英語学習向けのストラテジーが網羅されたものであるため、回答数の多さは回答者が中国語学習を比較的熱心に行っていることの指標とはならないが、だからこそ中国語と英語の言語的特徴の差異が表れると考えられる。以下に回答された内容と、（ ）内にはそれが属するストラテ

ジーパートを示す。また SILL テスト上のストラテジーと一致するものにはそのストラテジー番号を付した。なお、回答は原文のままではなく、漢字や送り仮名、語尾等若干の調整を行っている。

### ○英語学習

「覚えた単語であっても何度も繰り返して定着させる（記憶）」「単語は書きまくって覚える（記憶）」「参考書・教科書の CD を流し聞きする（メタ認知）」「喋りながら書いて覚える。1 つの文章を何回も読んでフレーズのように文の中での単語の使われ方を覚える（認知・10、記憶・2）」

### ○中国語学習

「ニュースや新聞など、目に入る単語の中国語訳やピンインでの読み方を考えるようにしている（メタ認知）」「声調変化を聞き分けたり、覚えたりするのが苦手なので音声ペンを使ったりして練習した（認知）」「日常生活でふと出てきた単語を中国語におきかえて頭の中で言ってみたりする（認知）」「音声ペンで正しい発音を聞くようにしている（認知）」「覚えにくい単語は何度も書いて発音しながら覚える（認知・10）」「暗記のために書きまくる（認知・10）」「新出単語でも以前習ったことのある字から意味を推測して関連づけて覚える（補償 24）」「CD や音声ペンで正しい発音を聞く（認知）」「中国語で書かれたサイトやブログをみて、何となく意味を把握する（メタ認知・36）」「電車のアナウンスを聞こうとする。基本の例文を覚えてから発展的な作文に挑戦するようにしている（メタ認知・32）」「単語を書き取ってみて、単語に愛着を覚える（記憶）」「音声ペンでいっぱい聞いて、発音するようにしている（認知 12）」「NHK の中国語会話をみて会話の幅を広げる（認知 15）」「音声ペンはどの単語を発音させているか分かってしまうので、発音の練習の時だけ使う。ピンインを聞いて単語を理解したい時は CD を使う（認知）」

以上の回答をストラテジーパートに分類すると、以下の表ようになる。

表 3

	記 憶	認 知	補 償	メタ認知	情 意	社 会	計
英 語	3	1	0	1	0	0	4
中国語	1	9	1	3	0	0	14

中国語については認知ストラテジーに該当するものが多く回答されている。各内容を検討すると、9 回答のうち発音・リスニングに関わるものが 6 回答である点に注目すべきであろう。これは英語学習とは異なる中国語の言語的特徴、ならびに日本語話者としての性質が原因している。すなわち、①英語が表音文字であるのに対し、中国語は表意文字であるため、単語を覚える際に、漢字表記とピンインの 2 種類を必ず覚えねばならない、②英語が音声からスペルを推測しやすいのに対し、中国語は 1 音節毎に 1 つの意味を持つため、聞き取りが読解に比べて困難である、③日本語にない子音と母音の音声が存在するため、相手に通じる発音をするまでに訓練を要する、の 3 点である。以上の状況があるため、単語の記憶や漢字の記憶が比較的容易である一方で、発音・リスニングは日本語話者にとって困難に感じられる。

Oxford による英語学習者を対象に考案されたストラテジーの中には、中国語学習と日本語話者に合わせたストラテジーが含まれない。そこで、筆者は日本語話者の状況を考慮し中国語学習専用の記憶ストラテジーを考案し調査した。

一つは「新出単語は、日本語の読み方（音読み・訓読み）と一緒に覚える」であるが、これは実際に学習者がしばしば実践している。日本語話者は単語を記憶する際、例えば「商店」「去年」など日本語の熟語と同じ漢字の組み合わせと意味であれば容易に記憶できるが、「要是（もしも）」「即使（たとえ）」など、日本漢字の知識からは推測不可能な組み合わせの単語も多い。そのため「要是」であれば「ヨウゼ」など日本語の読み方を合わせて組み合わせを覚えるという方法を採用するのである。二つ目は「ピンインは、同じ漢字の日本語での音読みと関連づけて覚える」である。日本語で音読みした場合に読みが共通する漢字は、声調を除く発音（ピンイン）が同じになる場合が多いという性質がある。例えば、「報（bao）」と「包（bao）」、「流（liu）」と「留（liu）」などが挙げられる。そのため、日本語の音読みから発音を推測する場合も多い。三つ目は「日本漢字と異なる簡体字は、何度も書いて覚える」である。中国語標準語で使用される簡略化漢字「簡体字」は、日本漢字と微妙な差異を持つものや原型を留めない程度に簡略化されたものがあり、特に初学者にとっては書き間違いが発生しやすく、アルファベットとは異なり一字毎に注意して記憶せねばならないためである。以上3つをアンケートの中国語学習 SILL テストの末尾に（51）から（53）として加え、中国語能力レベル別に使用状況を算出した結果、以下の表の通りになった。

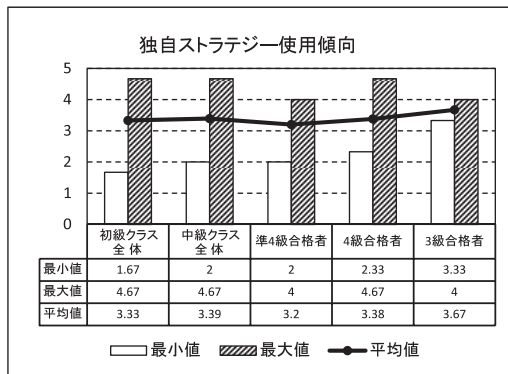


図 7

いずれも、SILL テストにおける記憶ストラテジーと比較して高い使用率を示しており、また合格級のレベルが上昇するにつれて、平均値が明らかに上昇している。前に述べた通り、中国語は初級で文法事項を概ね修了し、中級以降は語彙と表現といった文法以外の事項の記憶が主になるため、記憶ストラテジーの必要性も高まるためである。これらに加え、本調査結果の内、特に自由記述部分の回答を考慮するならば、さらにリスニング力・発音の正確さの向上のためのストラテジー、例えば「繰り返し聴いて音声面の語彙を増やす（記憶ストラテジー）」、「自身の発音をネイティブの音声と比較する（認知ストラテジー）」なども中国語専用のストラテジーとして追加可能であろう。

#### 4-4. ストラテジー使用を補助する講義形式

ストラテジーは、全ての項目を満遍なく使用するのが最良というわけではない。最も効果的であるのは、個々の学習者の好みと傾向を基に、ストラテジーパート毎に効果的な項目を選択し実行することである。しかし、一度に十数名から数十名を対象に行う講義形式で、個々の学習者の状況を教員が把握することは難しい。そのため、まずは学習者にもストラテジー教育を施すことが必要である。教員が一名ずつの把握をすることが困難であっても、講義で学習者にSILLテストを実施し、各自不足するストラテジーパートを認識させ、使用する機会を自ら思考させることで、無意識的に身につくのではない、自律的な選択を促すことが可能であろう。さらに重要なのは、ストラテジーを使用する機会自体を講義の中で提供することである。個々の学習者の熱意には差異があるにせよ、教育によって全体の水準を底上げすることが教員の任務である以上、講義形式の工夫は可能な限り取り組むべき課題である。

近年研究されているAL（アクティブ・ラーニング）式の講義の趣旨は、教員ではなく学習者を学習の主体とし、学習効果を高める点にある。すなわち、教員の講義を一方的に聞き知識を得る従来の受動的学習ではなく、学習者が自身の知識を能動的に使用し、学びを深める機会を提供する学習である。外国語教育におけるストラテジーの観点に立てば、これは間接ストラテジーの使用を促す講義手法と言い換えることができる。本調査では、特に初級者クラスにおいて間接ストラテジーの使用率が低いことが明らかになったため、ALを採り入れることで学習効果の向上が期待できるといえる。すでにALの効果については数多くの研究で実証されており、外国語教育向けのAL式の講義手法も、主に英語教育についてはあるが、様々に開発されている。ただし外国語教育においてALを実践する場合、言語の運用およびコミュニケーション能力の養成が主眼とされるため、しばしばグループワークの形が採られるが、必修科目の場合は受講者数が多く、教員の補助となるティーチング・アシスタントの雇用にも限界があるほか、進捗等の制限が課されるなどの問題もあり、それらの手法を十分に生かすことが難しい。また第二外国語教育の場合、英語とは異なり知識がゼロの状態から学習せねばならない。グループワークが成立する程度のコミュニケーション実践が可能な水準になるまでに、場合によっては数ヶ月から半年が必要となるため、たとえ実践したとしても、英語ほどの成果が上がることは難しいだろう。

ただしそのような状況にあっても、教員がストラテジーの知識を把握し目安とすることにより、ALを実践した場合に近い、学習者がすでに得た知識を使用する機会を作る講義形式は構築可能である。例えば、4-2でふれた中国語中級クラス担当教員が実施している口頭での応答は、外国語の使用とフィードバックがセットになったコミュニケーション実践であり、直接ストラテジーに偏るデスクワーク型の学習になりがちな外国語学習者にメタ認知ストラテジー（「自分の中国語の間違いを発見すると、それをその後の中国語の勉強に役立てる」「誰かが話す中国語を注意して聞く」）・社会的ストラテジー（「中国語が分からなかった時、ゆっくり話してもらいかもう一度言ってもらよう相手に頼む」「他の学生と中国語を練習する」）・情意ストラテジー（「間違えるのが怖い時でも、自分を励まして中国語で話す」）などの間接ストラテジーの使用を促す機会となっており、それが調査結果に表れていた。リスニングと発音が課題となる中国語初級者であっても、基礎発音の段階を終えた時点から単純な発話とフィードバックの作業を課すことにより、教科書の学習を主とした直接ストラテジーと間接ストラテジーの相互作用が期待できる。

教員毎に講義の進度が異なるだけでなく、発音・リスニング・文法など各事項の説明に割く時間の割合も異なるが、無論それは各教員が講義において何を重視するか、という自由裁量の領域にあたる。しかし、偏りのないストラテジーパートの使用が学習効果に結びついていることがデータの上で明らかになった以上、講義形式についての検討を筆者自身の課題としたい。

## おわりに

本調査において、中国語学習者においても、やはり言語学習ストラテジーと習熟度との間に相関関係が確認できた。また、英語初級者・中級者と中国語初級者におけるストラテジー使用傾向がいずれも直接ストラテジー偏重傾向にあり、言語間・レベル間で有意な差がみられないものの、中国語中級者のストラテジー使用傾向のみ間接ストラテジーの使用率が高く、それが英語学習ストラテジーにも転移する現象が発見できた。また、中国語の言語的特徴のために日本語話者が不得意とする発音・リスニングのストラテジーが、SILL テストにまとめられたストラテジー項目に不足している点も確認した。

初級・中級クラスの間には事実上、一年間の学習歴の差が存在する。ストラテジー使用傾向の変化が、実際にいかなるタイミングで起こり、またそれが講義形式の差異のみに拠るものなのかについて追跡調査を行う必要があるだろう。また、異なる教授法を採用した教員の、中国語中級クラスの状況も調査せねばならない。これらを今後の課題として、さらに中国語の言語学習ストラテジーの活用について研究を進めていきたい。

## 【註】

- (1) レベッカ・L・オックスフォード『言語学習ストラテジー』宍戸通庸・伴紀子訳、凡人社、1994年5月、p 37
- (2) レベッカ・L・オックスフォード『言語学習ストラテジー』宍戸通庸・伴紀子訳、凡人社、1994年5月、p 114
- (3) Oxford, R. L. (1990). *Language Learning Strategies — What Every Teacher Should Know*. Rowley: Newbury House, p293-298

## 【参考文献】

今井光子「学習者のストラテジーからみる自律性の考察」、『論叢（玉川大学文学部紀要）』第54号、2013年  
杉橋朝子「学生の言語ストラテジーに関する一考察」、『経営・情報研究』No.8、2004年  
原田早苗「効果的な外国語学習ストラテジーとは？」、『フランス語教育』第26号、1998年  
元木芳子「第二言語学習と学習ストラテジー」、『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.7、2006年  
レベッカ・L・オックスフォード『言語学習ストラテジー』宍戸通庸・伴紀子訳、凡人社、1994年  
徐子亮『漢語作為外語の学習研究：認知模式と策略』、北京大学出版社、2010年  
Oxford, R. L. *Language Learning Strategies — What Every Teacher Should Know*. (Rowley: Newbury House. 1990)

## 【参考資料】

SILL テスト バージョン 7.0<sup>(3)</sup> (日本語訳は筆者による)

**記憶ストラテジー：**(1) 英語の学習で得た新たな知識と、今までの知識とを関連づける (2) 新出単語は文の中で使いながら覚える (3) 新出単語は発音とイメージとを結びつけて覚える (4) 新出単語はそれを使う状況を想像しながら覚える (5) 新出単語は発音の語呂合わせを使って覚える (6) 新出単語はカードに書いて覚える (7) 新出単語は実際に体を動かしてみても覚える (8) 頻繁に復習する (9) 新出単語やフレーズはページ・黒板・標識などの書かれていた場所と一緒に覚える

**認知ストラテジー：**(10) 新出単語は声に出したり書いたりして覚える (11) ネイティブスピーカーのように話そうとしている (12) 発音の練習をする (13) 知っている単語を様々な形に使ってみる (14) 自分から英語を使って話し始める (15) 英語のテレビ番組や映画をみる (16) 英語で書かれた本を娯楽として読む (17) 英語でメモ・メッセージ・手紙・レポートを書く (18) 英語を読む時はまずざっと大まかに意味を把握してから、また最初から注意しつつ読み直す (19) 新出単語と似た意味の日本語の単語や語句を探してみる (20) 文法にパターンがないか探してみる (21) 単語をいくつかの部分に分解して意味を考える (22) 逐語訳をしないようにしている (23) 英語で聞いたり読んだりしたことは概略にまとめる

**補償ストラテジー：**(24) 知らない単語はまず意味を推測してみる (25) 英語で会話中に言葉につまった時はジェスチャーを使う (26) 英語での正しい表現が分からない時は新しい表現を作ってみる (27) 英語で本を読む時はなるべく辞書で調べないようにしている (28) 英語で会話する時は、相手が次に何を言うかを推測する (29) 英語でどう言えばよいか分からない時、同じ意味の言葉やフレーズに言い換える

**メタ認知ストラテジー：**(30) 英語を使う機会を積極的に探している (31) 自分の英語の間違いを発見すると、それをその後の英語の勉強に役立てる (32) 誰かが話す英語を注意して聞く (33) より良い英語学習の仕方を考える (34) 十分な英語学習の時間がとれるように自分のスケジュールをたてる (35) 英会話の相手を探す (36) 英語を読む機会をなるべく多くするようにしている (37) 英語上達に関するはっきりした目標がある (38) 英語の上達の進み具合について考える

**情意ストラテジー：**(39) 英語を使うのが怖い時は常にリラックスするようにしている (40) 間違えるのが怖い時でも、自分を励まして英語で話す (41) 英語がよくできた時は自分に褒美をあげる (42) 英語を学習する時や使う時、自分が緊張しているかどうか気づく (43) 学習日記をつけて自分の気持ちを書く (44) 英語の学習をしている時の気持ちを誰かに話す

**社会的ストラテジー：**(45) 英語が分からなかった時、ゆっくり話してもらうか、もう一度言ってもらよう相手に頼む (46) 英語を話す人に自分の言い間違いを指摘してもらえるよう頼む (47) 他の学生と英語を練習する (48) 英語を話す人に手助けを求める (49) 質問する時にも英語を使う (50) 英語圏の文化について学ぼうとしている

中国語バージョン SILL テスト (\*は初級クラスの調査で省略された項目を指す)

**記憶ストラテジー：**(1) 中国語の学習で得た新たな知識と、今までの知識(日本語・漢文など)とを関連づける (2) 新出単語は文の中で使いながら覚える (3) 新出単語は発音とイメージとを結びつけて覚える (4) 新出単語はそれを使う状況を想像しながら覚える (5) 新出単語は音の語呂合わせを使ってピンインを覚える (6) 新出単語はカードに書いて覚える (7) 新出単語は実際に体を動かしてみても覚える (8) 頻繁に復習する (9) 新出単語やフレーズはページ・黒板・標識などの書かれていた場所と一緒に覚える

**認知ストラテジー：**(10) 新出単語は声に出したり書いたりして覚える (11\*) ネイティブスピーカーのように話そうとしている (12) 発音の練習をする (13) 知っている単語を様々な形に使ってみる (14\*) 自分から中国語を使って話し始める (15\*) 中国語のテレビ番組や映画をみる (16\*) 中国語で書かれた本を娯楽として読む (17\*) 中国語でメモ・メッセージ・手紙・レポートを書く (18\*) 中国語を読む時はまずざっと大まかに意味を把握してから、また最初から注意しつつ読み直す (19) 新出単語と似た意

味の日本語の単語や語句を探してみる（20）文法にパターンがないか探してみる（21）単語をいくつかの部分に分解して意味を考える（22）逐語訳をしないようにしている（23\*）中国語で聞いたり読んだりしたことは概略にまとめる

**補償ストラテジー：**（24）知らない単語はまず意味を推測してみる（25\*）中国語で会話中に言葉につまった時はジェスチャーを使う（26\*）中国語での正しい表現が分からない時は新しい表現を作って使う（27\*）中国語で本を読む時はなるべく辞書で調べないようにしている（28\*）中国語で会話する時は、相手が次に何を言うかを推測する（29\*）中国語でどう言えばよいか分からない時、同じ意味の言葉やフレーズに言い換える

**メタ認知ストラテジー：**（30）中国語を使う機会を積極的に探している（31）自分の中国語の間違いを発見すると、それをその後の中国語の勉強に役立てる（32）誰かが話す中国語を注意して聞く（33）より良い中国語学習の仕方を考える（34）十分な中国語学習の時間がとれるように自分のスケジュールをたてる（35）中国語会話の相手を探す（36\*）中国語を読む機会をなるべく多くするようにしている（37）中国語上達に関するはっきりした目標がある（38）中国語の上達の進み具合について考える

**情意ストラテジー：**（39\*）中国語を使うのが怖い時は常にリラックスするようにしている（40\*）間違えるのが怖い時でも、自分を励まして中国語で話す（41）中国語がよくできた時は自分にご褒美をあげる（42）中国語を学習する時や使う時、自分が緊張しているかどうか気づく（43）学習日記をつけて自分の気持ちを書く（44）中国語の学習をしている時の気持ちを誰かに話す

**社会的ストラテジー：**（45\*）中国語が分からなかった時、ゆっくり話してもらいかもう一度言ってもらよう相手に頼む（46\*）中国語を話す人に自分の言い間違いを指摘してもらえよう頼む（47）他の学生と中国語を練習する（48）中国語を話す人に手助けを求める（49）質問する時にも中国語を使う（50）中国語圏の文化について学ぼうとしている

**中国語学習専用・記憶ストラテジー：**（51）新出単語は、日本語の読み方（音読み・訓読み）と一緒に覚える（52）ピンインは、同じ漢字の日本語での音読みと関連づけて覚える（53）日本漢字と異なる簡体字は、何度も書いて覚える